



東京製綱株式会社
TOKYO ROPE MFG.CO.,LTD.

2009年3月期 決算説明会

2009年5月29日

目次

2009年3月期 決算の概要

2010年3月期 見通し

ビジネスの現状と今後の戦略

2009年3月期 決算の概要

2010年3月期 見通し

ビジネスの現状と今後の戦略

2009年3月期 決算ポイント

増収:売上高約800億円、営業利益30億円を確保

売上高

797億5900万円（前期比 +1.7%）

中国子会社本格稼働と価格改定効果が奏功

営業利益

31億9100万円（前期比 Δ 21.4%）

太陽電池関連製品(ソーワイヤ・ワイヤー)は順調に伸長、
中国子会社改善も、
鋼索鋼線数量減、橋梁部門不採算物件の影響あり減益

当期純利益

Δ 1億7600万円

減損損失、有価証券評価損の計上が影響

2009年3月期 決算ハイライト

(単位:百万円)

	08/3	売上高比	09/3	売上高比	前期比	
売上高	78,444	—	79,759	—	+1,315	101.7%
営業利益	4,061	5.2%	3,191	4.0%	△870	78.6%
経常利益	3,338	4.3%	2,344	2.9%	△994	70.2%
当期純利益	1,131	1.4%	△176	—	△1,307	—

主要製品の状況（09年3月期）

鋼索鋼線セグメントで4Qから需要減少の影響あり

		08/3	→	09/3	
鋼索鋼線	ロープ・ワイヤ	◎		○/△	材料の価格高騰には対応 4Qから需要急減
	スチールコード (タイヤコード+ソーワイヤ)	△		△	中国子会社が本格稼動 ソーワイヤ増も、 国内タイヤコード大幅減
開発製品	産業機械	◎		◎	ワイヤソーは前期比 大幅増加
	道路安全施設	○		○	09/3は減収も 安定した受注は確保

セグメント別の状況（売上高）

鋼索鋼線：数量減も価格改定効果と中国売上増で増収

開発製品：公共関連減少の影響受ける

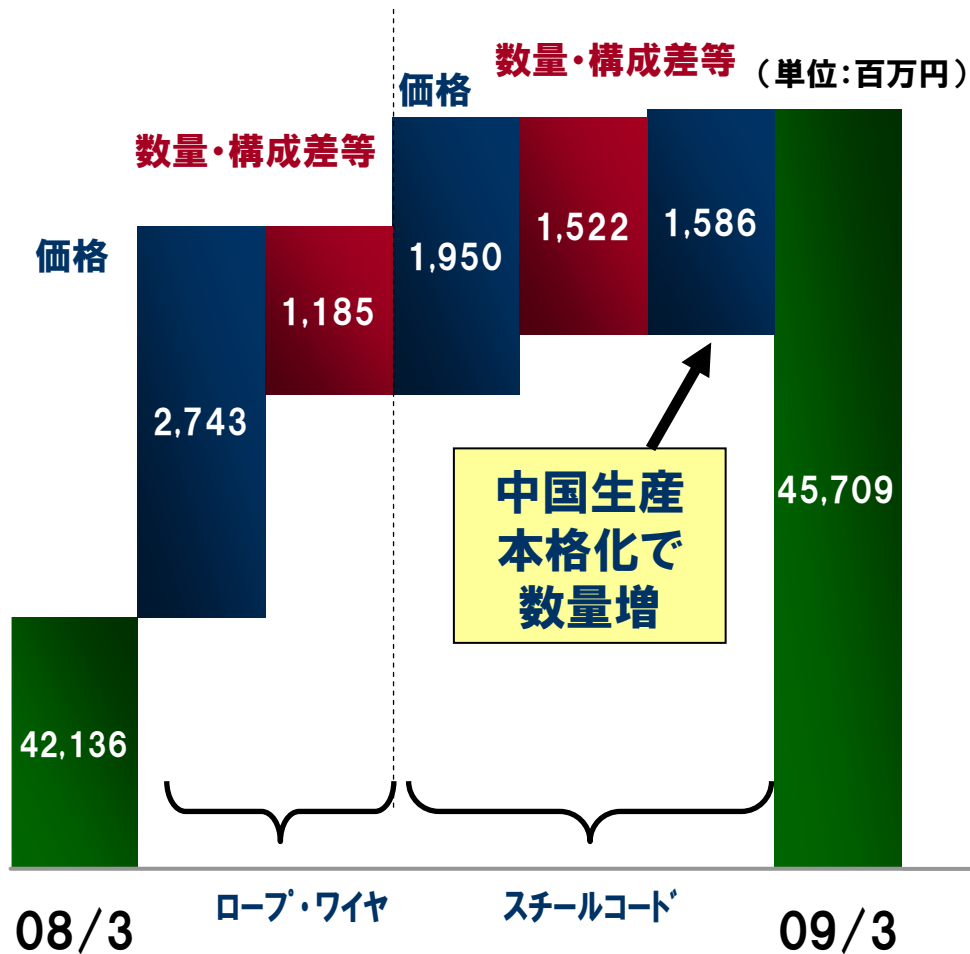
（単位：百万円）

	08/3	構成比	09/3	構成比	前期比	
鋼索鋼線	42,136	53.7%	45,709	57.3%	+3,573	108.5%
開発製品	25,544	32.6%	23,396	29.3%	△2,148	91.6%
不動産	1,398	1.8%	1,414	1.8%	+16	101.1%
その他	9,365	11.9%	9,239	11.6%	△126	98.7%
合計	78,444	100.0%	79,759	100.0%	1,315	101.7%

増減要因分析（売上高）

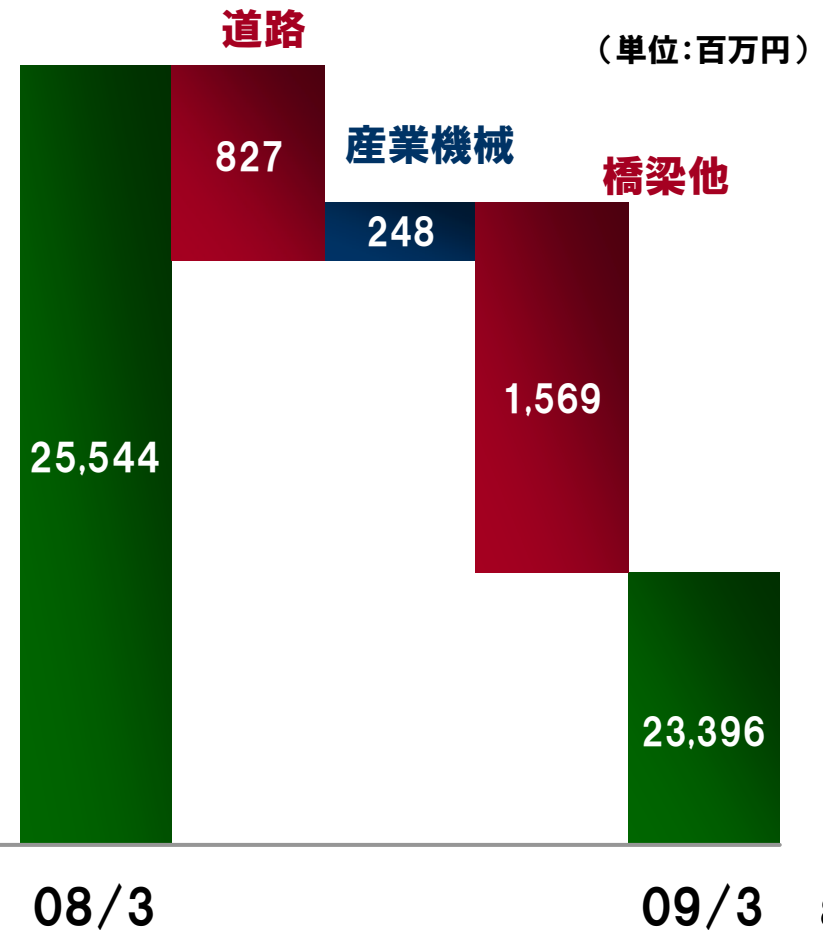
鋼索鋼線

ロープ・ワイヤ、スチールコード
(タイヤコード・ソーワイヤ)



開発製品

道路安全施設・産業機械・橋梁など
(ワイヤソー)



セグメント別の状況（営業利益）

鋼索鋼線： 中国子会社、ソーワイヤ増収効果あり
 ロープ・ワイヤ、タイヤコードの需要減をカバー

開発製品： ワイヤソーは増加も、橋梁部門不採算物件、
 道路部門減収、他の産業機械減少の影響あり

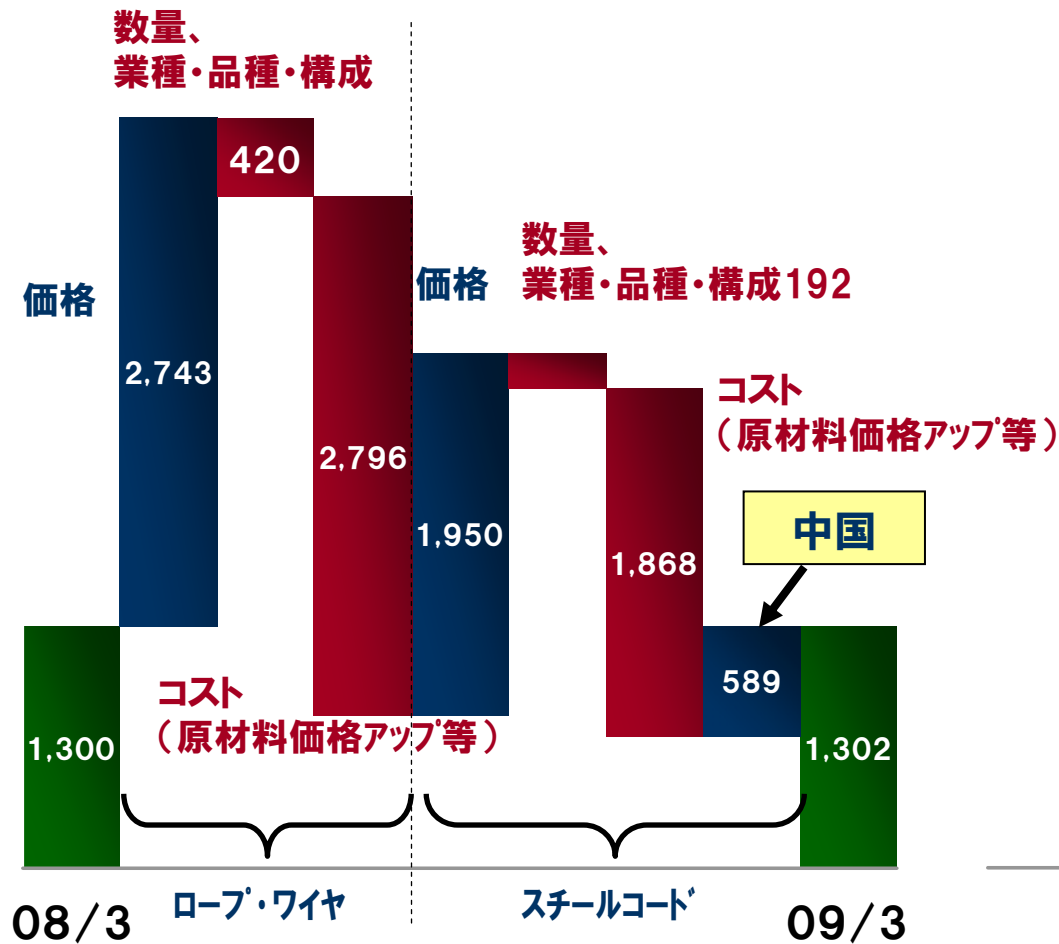
（単位：百万円）

	08/3	構成比	09/3	構成比	前期比	
鋼索鋼線	1,300	32.0%	1,302	40.8%	+2	100.2%
開発製品	1,560	38.4%	567	17.8%	△993	36.3%
不動産	811	20.0%	816	25.6%	+5	100.6%
その他	388	9.6%	504	15.8%	+116	129.9%
合計	4,061	100.0%	3,191	100.0%	△870	78.6%

増減要因分析（営業利益）

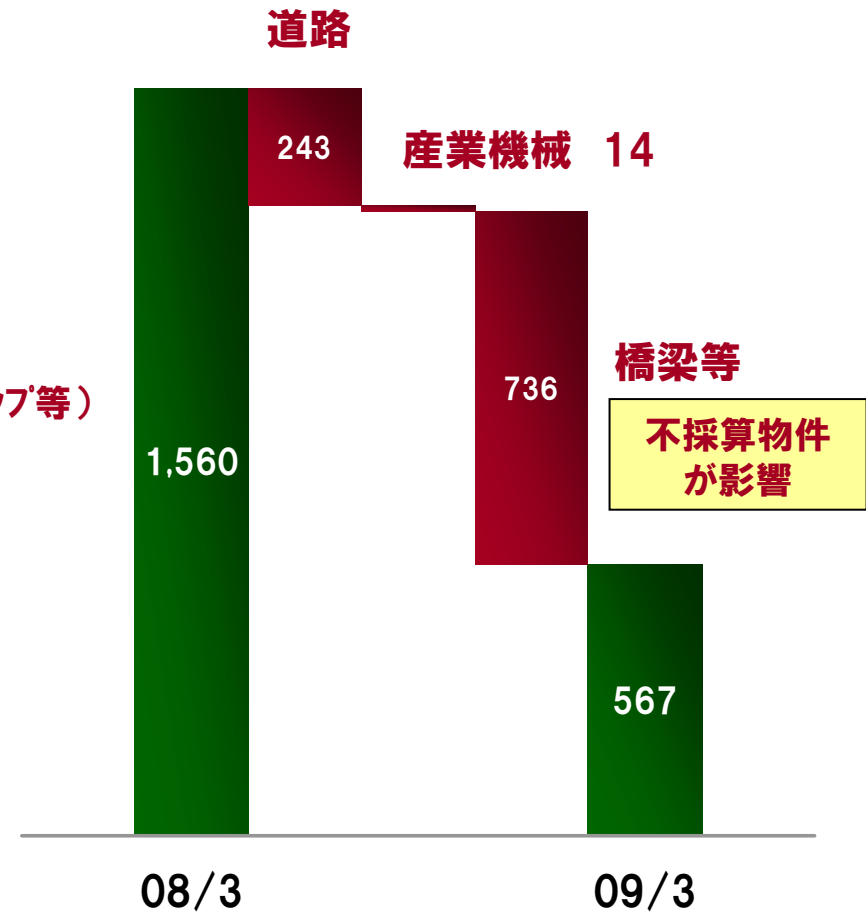
鋼索鋼線

ロープ・ワイヤ、スチールコード



開発製品

道路安全施設、産業機械、橋梁など



キャッシュ・フロー

財務状況に大きな変化なし

営業活動： 減益、棚卸資産増加等

投資活動： 前期は投資有価証券取得あり

	07/4-08/3	08/4-09/3
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,314	3,669
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,417	△3,698
フリー・キャッシュ・フロー	△1,103	△29
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,934	53
現金及び現金同等物の期末残高	1,891	1,756

09年3月期 決算の概要

2010年3月期 見通し

ビジネスの現状と今後の戦略

2010年3月期 見通し

国内需要の減少を見込み減収も
中国需要の増加と開発製品復調で収益を確保
特別損失解消により、当期純利益は大幅回復へ

売上高 : 760億円 (△4.7%)

営業利益 : 30億円 (△6.0%)

(単位:百万円)

	09/3 実績	売上高比	10/3 見通し	売上高比	前期比	
売上高	79,759	—	76,000	—	△3,759	95.3%
営業利益	3,191	4.0%	3,000	3.9%	△191	94.0%
経常利益	2,344	2.9%	2,200	2.9%	△144	93.9%
当期純利益	△176	—	1,500	2.0%	+1,676	—

主要製品見通し(2010年3月期)

鋼索鋼線は中国伸長、開発製品は公共関連が改善

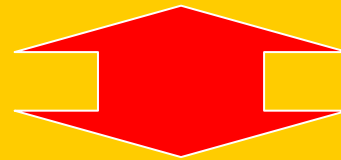
やや厳しい

ロープ・ワイヤ ・国内: 需要低迷 (ロープ数量ベースで前期比約10%減)

タイヤコード ・国内: 新規・取替需要とも不振 (数量ベースで前期比約25%減)
・海外(中国)需要は復調、確実に増加 (数量ベース同約10%増)

太陽電池関連

ワイヤー(装置) ・今期は一服感で受注減を想定



ソーワイヤ(消耗品) ・当社太陽電池関連の主力製品
中国で増産実施、国内も足元弱含みも増加基調

公共関係

・橋梁関係は不採算物件が一掃され、大幅に収益改善へ
・道路安全施設は、公共投資増を考慮(アクリル板遮音壁等)

堅調+回復

2010年3月期 見通し（セグメント別売上高）

鋼索鋼線 約8%減 開発製品 約5%増

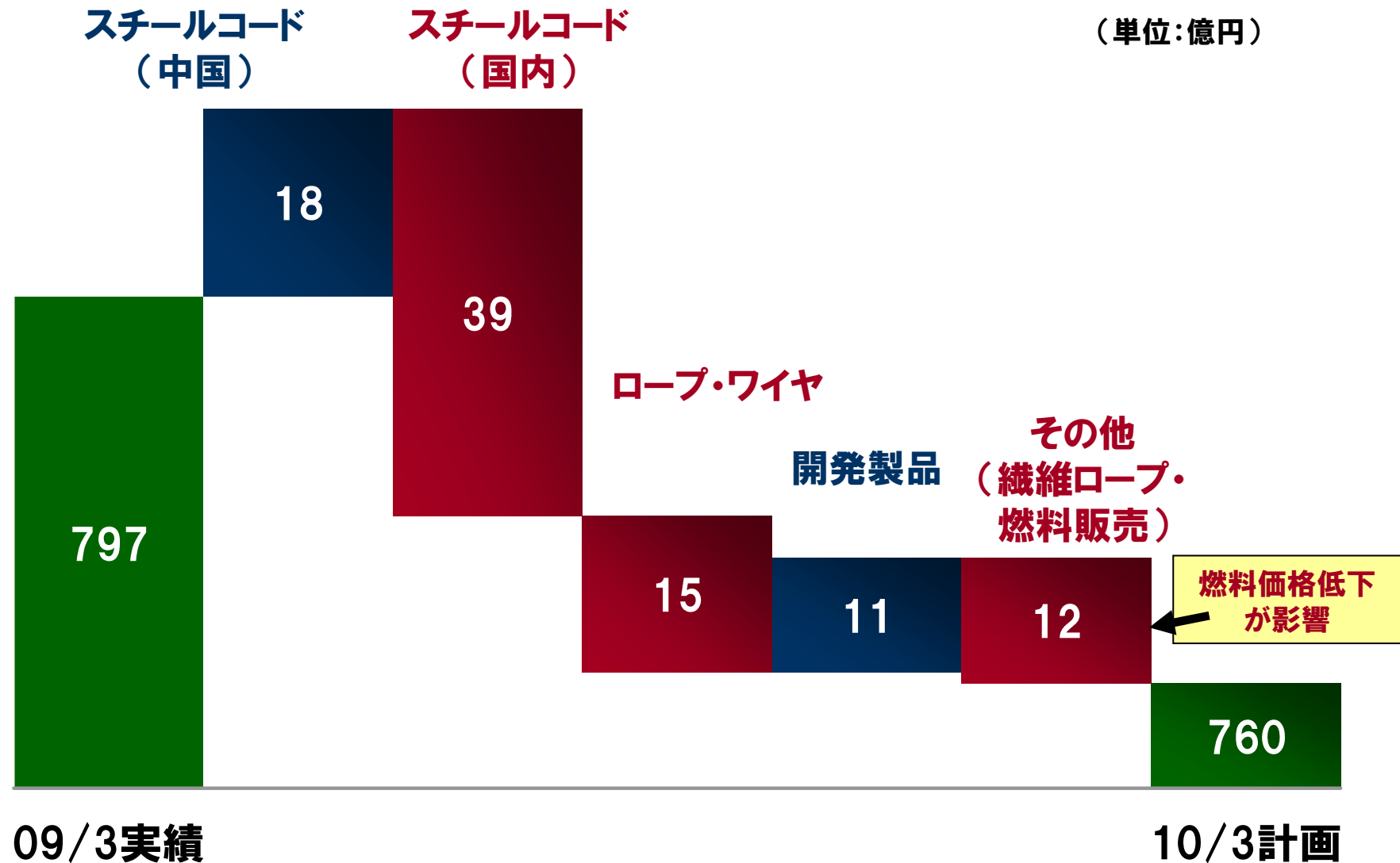
鋼索鋼線： 国内ロープ・ワイヤ、スチールコードは数量減も
中国子会社・ソーワイヤは堅調を見込む

開発製品： 産業機械(ワイヤソー)減少も公共関連は案件増加へ

(単位:百万円)

	09/3 実績	構成比	10/3 見通し	構成比	前期比	
鋼索鋼線	45,709	57.3%	42,100	55.4%	△3,609	92.1%
開発製品	23,396	29.3%	24,500	32.2%	+1,104	104.7%
不動産	1,414	1.8%	1,400	1.8%	△14	99.0%
その他	9,239	11.6%	8,000	10.5%	△1,239	86.6%
合計	79,759	100%	76,000	100%	△3,759	95.3%

増減見通し分析 (2010年3月期 売上高)



2010年3月期 見通し（セグメント別営業利益）

開発製品の収益改善が寄与

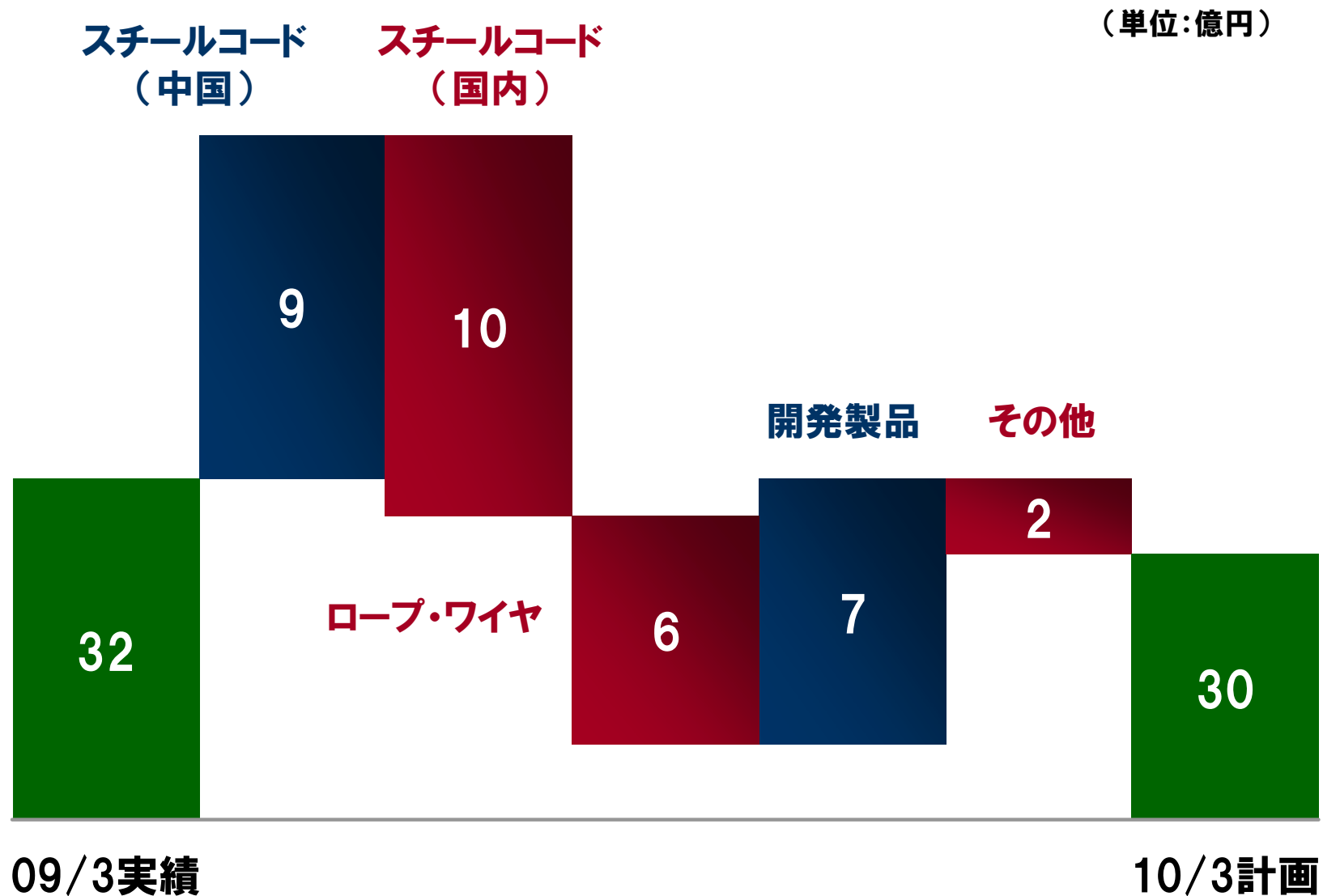
鋼索鋼線： 中国スチールコード事業は操業本格化で収益改善へ

開発製品： 橋梁含む公共関連の改善が影響

（単位：百万円）

	09/3 実績	構成比	10/3 見通し	構成比	前期比	
鋼索鋼線	1,302	40.8%	650	21.7%	△652	49.9%
開発製品	567	17.8%	1,250	41.7%	+683	220.5%
不動産	816	25.6%	800	26.7%	△16	98.0%
その他	504	15.8%	300	10.0%	△204	59.5%
合計	3,191	100.0%	3,000	100.0%	△191	94.0%

増減見通し分析（2010年3月期 営業利益）



設備投資額・減価償却費・研究開発費

設備投資

国内：更新投資及びソーワイヤ増産

海外：中国(ソーワイヤ)、ベトナムで能力増強投資

(単位:百万円)

	09/3		10/3	
	実績	前期比	見通し	前期比
設備投資額 (内海外)	3,372 (788)	△312	3,000 (1,300)	△372 (+512)
減価償却費	3,724	+85	3,700	△24
研究開発費	764	+19	800	+36

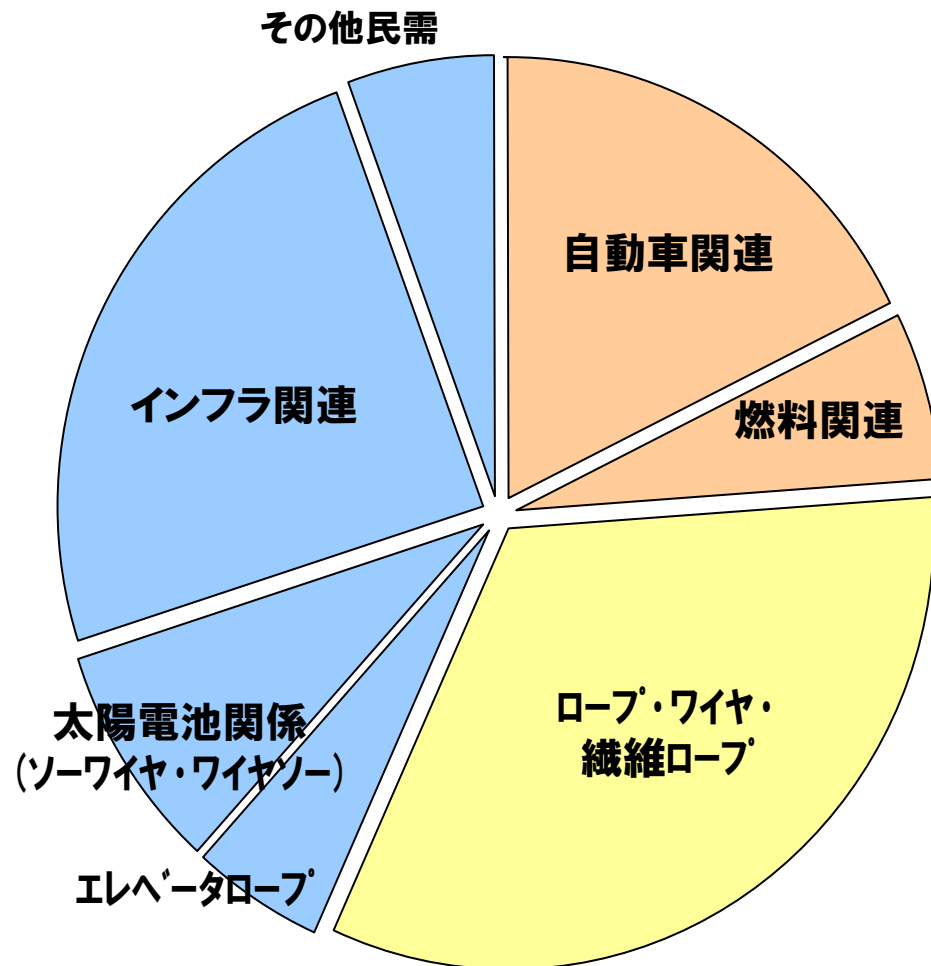
2009年3月期 決算の概要

2010年3月期 見通し

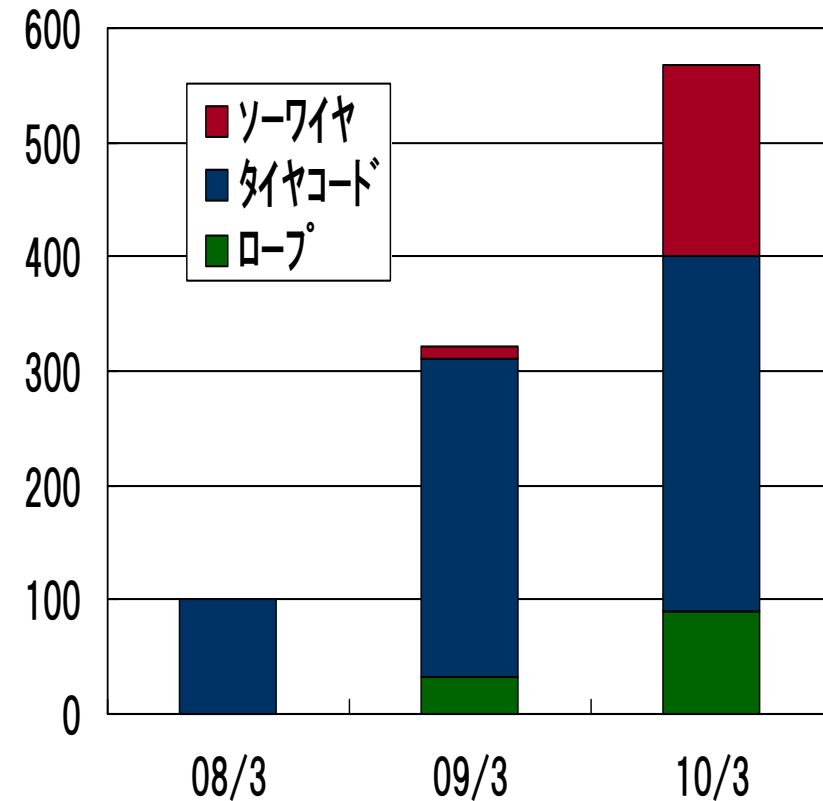
ビジネスの現状と今後の戦略

当社事業ポートフォリオの特徴

10/3 売上内訳

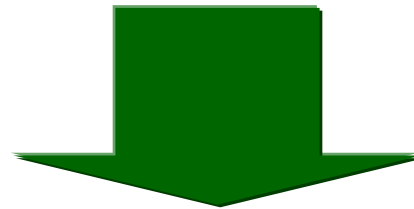


海外事業売上推移 (08/3=100)



中長期事業環境への対応： 基本施策は不変

世界的な需要減退で事業環境は大きく変化



**現中計の前提条件は変わったが、
世界的インフラ整備とエコ・環境分野で
更なる成長・拡大を志向する**

基本施策：成長+差別化+ビジネスモデルの変換

成長市場捕捉

- ・中国タイヤコード
- ・高級エレベータロープ
- ・高強度橋梁用ケーブル
- ・ソーワイヤ・ワイヤソー

差別化商品(工法)投入

- ・高強度ロープ
- ・ハイブリッドロープ
- ・落石防護工
- ・アクリル板遮音壁
- ・タフコーティッド製品
- ・炭素繊維複合材ケーブル

ビジネスモデルの変換

- ・ソーワイヤ・ワイヤソーのシナジー
- ・ロープ診断システム

安全・環境・防災・省エネ



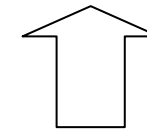
競争力の強化

ロープ流通再編

統合システム
(Web受注)

最新設備導入
(伸線機・製綱機)

アメーバ経営の推進
(ロープ・ワイヤ部門)



技術力強化
(研究所の強化)



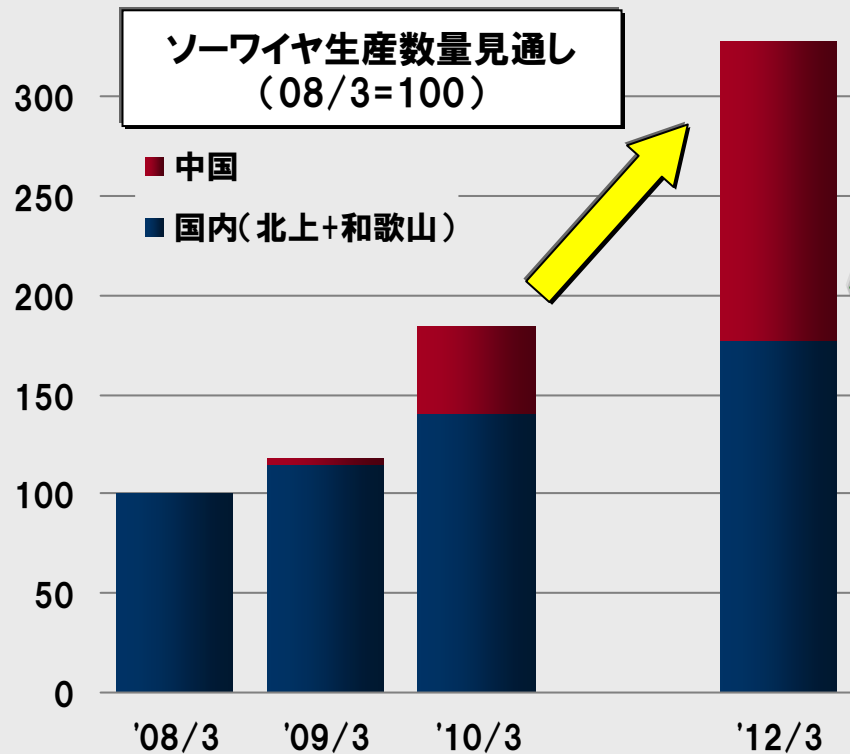
風土改革・人材育成
(技能度評価システム)

成長市場である太陽電池関連を今後も強化

09/3 太陽電池関連売上 前期比6割増

ソーワイヤ（消耗品）

内外共に順調に数量増加



ワイヤソー（装置）

中長期拡大傾向に変化なし

目先、金融危機・景気低迷による市場環境変化が影響し、受注・生産は一服感だが、来期以降は再び需要拡大へ

海外ビジネスの現状① 中国・スチールコード

本格稼動した中国ビジネス： 収益への貢献度高まる

10/3 売上：+18億円、営業利益：+9億円(09/3比)

中国・常州工場の現状

- **タイヤコード**
昨年9月に月産1,500トン体制を確立
昨秋～1Q(1月～3月)は顧客の生産調整の影響あるも、
2Q以降(4月～)は中国顧客中心に回復、フル稼動へ
- **ソーワイヤ**
顧客認証取得が順調に進展
本年に入り、定常的納入開始
現在設備増強中、更なる増加を目指す

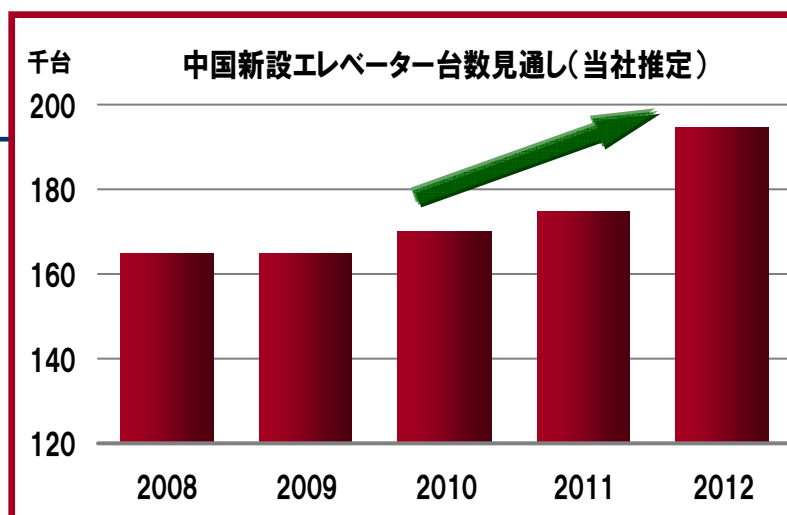
海外ビジネスの現状② ベトナム・ロープ

東京製綱ベトナム

10/3 上期中に生産能力倍増へ（月産350ト）

現状

- 中国のエレベーター新設需要
09年は短期的な「踊り場」となる見込みも
景気刺激策等の影響でその後は堅調な成長を維持
- 近年中に中国でもロープ交換需要増も期待される
- 東南アジア地域の交換需要にも対応

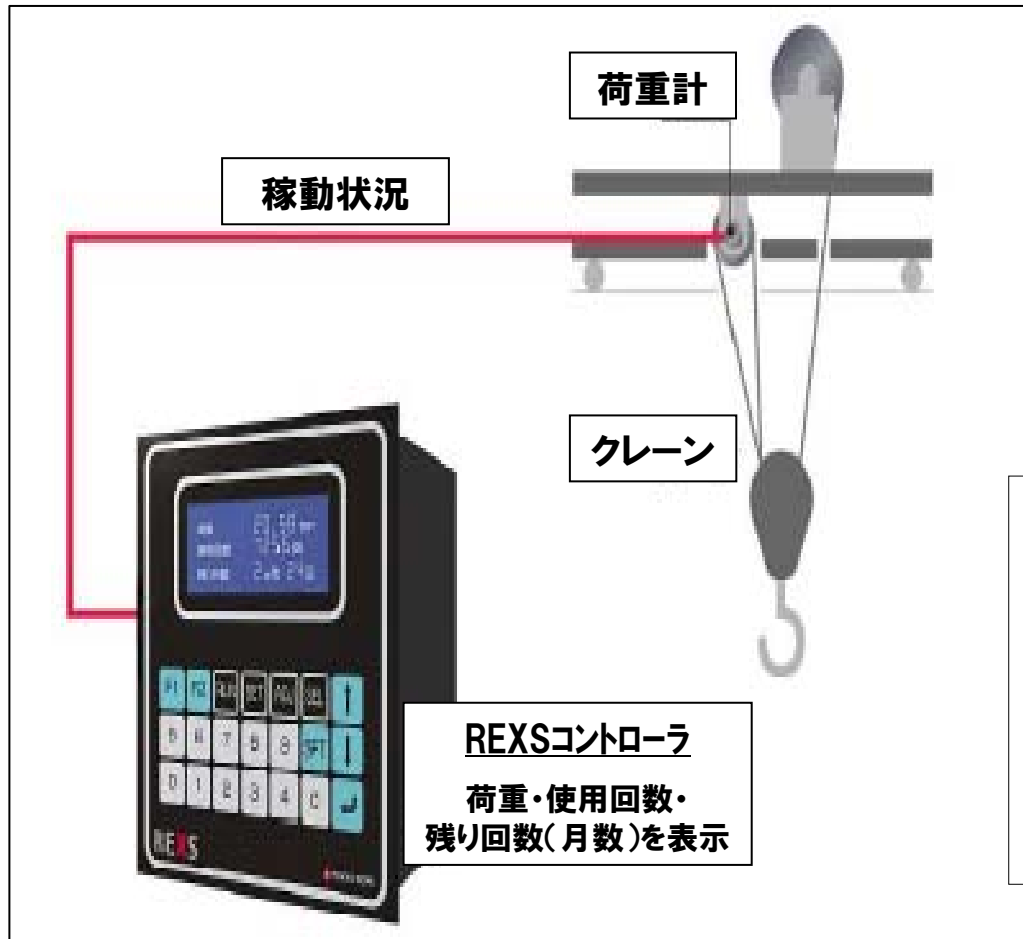


ワイヤロープ寿命管理コントローラを開発

REXS

(Rope Exchange Support System)

クレーンロープの実際の仕事量(吊り荷重と使用回数)を反映した寿命管理システム



煩雑なロープ管理の
大幅な簡略化を実現



荷重計からの情報で
使用回数を減算(残り回数を算定)
ロープへの負担量を正確に把握し、
的確な交換時期の見極めが可能に

特許は新日鐵との共同出願

平成21年度 日本塑性加工学会技術開発賞を受賞

環境に優しい高強度橋梁用鋼線を開発 (新日鐵との共同開発案件)

直接圧延熱処理線材 + 当社製造技術

内 容

直接圧延熱処理線材を使用し、鉛パテティングを
使わずに世界最高の強度及びねじり特性を持った
高強度橋梁用鋼線を実現

効 果

鉛フリー化を実現⇒

- ①環境負荷の低減
- ②焼入れ工程省略によるコスト削減

既に海外の複数物件で採用済

ロープ・ワイヤ事業でアメーバ経営始動(08年4月～)

1年目の成果

- ・自部門の採算を全員が意識するようになった
- ・現場リーダーのキャッシュ・フローに対する意識が高まった
- ・部門横断的なプロジェクトが動き出した

+

今年度以降の期待効果

- ・新商品の計画的、組織的拡販
- ・棚卸資産圧縮によるキャッシュの創出
- ・生産リードタイム短縮による短納期化の実現
- ・全ての現場に根を張ったコストダウンの推進

当社主力のロープ・ワイヤ事業の収益性強化

- ・情報・生産技術の共有化
- ・製品別・工程別採算管理の徹底

中長期成長戦略 海外市場中心に成長目指す

世界的なエコ・省エネ・インフラ整備にビジネスチャンスあり

	国内	海外
ロープ・ワイヤ (エレベーターロープ)	成熟・低成長△	新設・取替需要拡大◎
タイヤコード	成熟・低成長△	中国・新興国で拡大○
太陽電池関連 (ソーワイヤ/ワイヤソー)	成長◎	世界的な需要拡大◎
橋梁用ケーブル	案件減△	世界的規模でのインフラ整備◎
道路関連 (落石・アクリル遮音壁)	成長期待○	

安定的な株主還元を継続

現中計の配当性向30%(～10年3月期)を目標

	08/3	09/3 確定	10/3 予想
通 期	2円50銭	2円50銭	未 定
配当性向(連結)	33.4%	—	

個人投資家を意識したHP新コンテンツ(09年2月～)



当社事業内容を
漫画・イラストで
わかりやすく解説

トップページから誘導



参考資料

当社の主力製品(ロープ・安全関連+太陽電池関連)



(鋼索鋼線)

伝統的主力製品
(クレーン用ロープ・エレベーターロープなど)



(鋼索鋼線)

伝統的主力製品
(電力・通信ケーブルなど)



(鋼索鋼線)

自動車タイヤ補強材
太陽電池シリコン切断用ソーワイヤ



(開発製品)

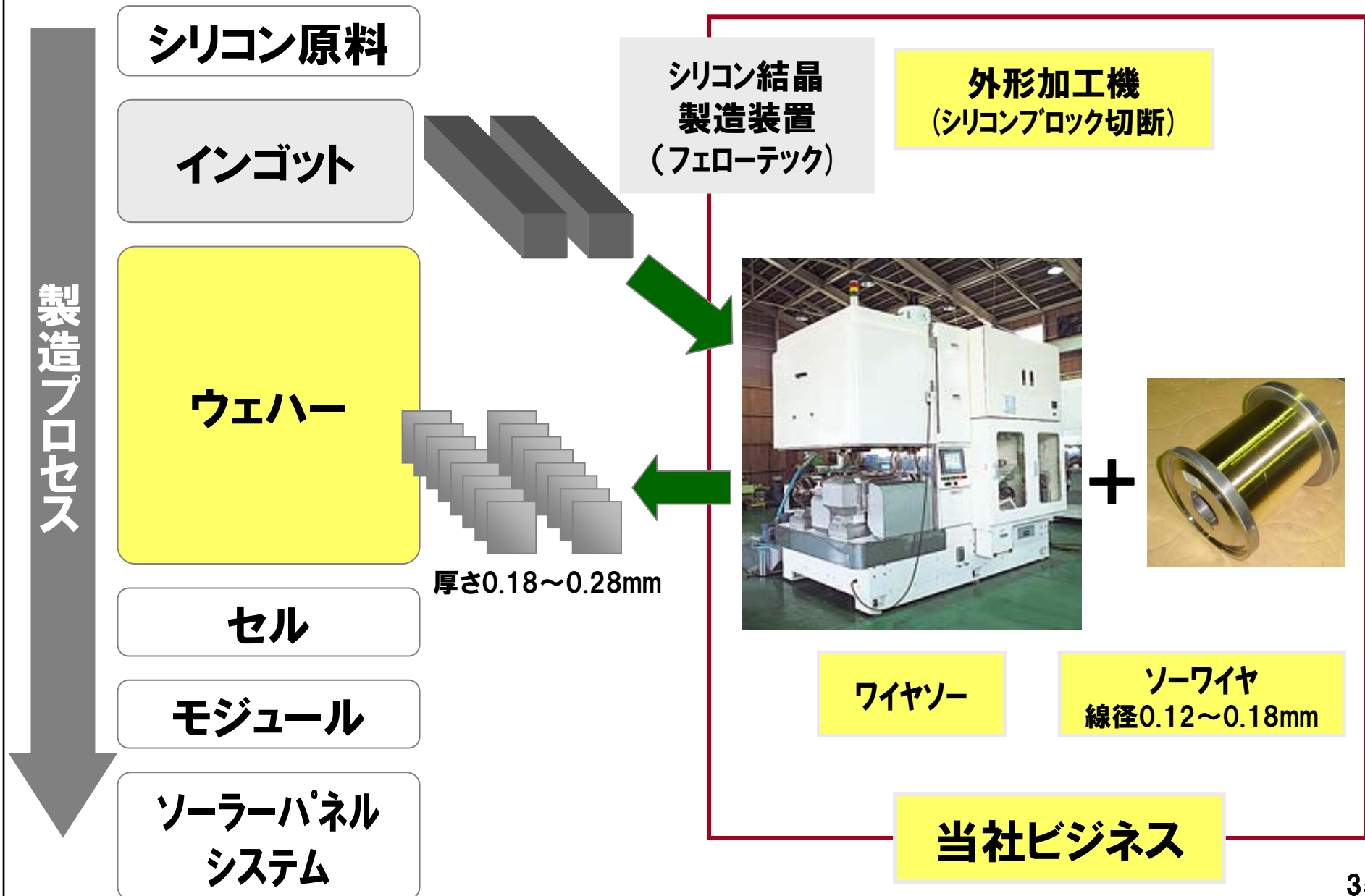
安全施設・鋼構造物・橋梁
(道路・法面・積雪、橋梁・港湾関係など)



(開発製品)

各種産業用機械
(太陽電池シリコン切断用ワイヤソー含む)

太陽電池関連ビジネス： 当社の位置付け



ご注意

- 本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
- 本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証又は約束するものではありませんのでご了承ください。

東京製綱株式会社

2009年5月